



挑戦！君の魂に火をつける！

日本テニスは今どこまで世界に近づいたのか
何を遺してきたのか

る！



日本テニス協会
男子ジュニア14才以下監督

日本テニス協会強化育成本部副本部長
修造チャレンジ

＜1部＞基調講演「日本テニスの成長軌道をたどる」14:50～

前半：基調講演 佐藤雅幸顧問（最終講演）

後半：講演・対談「世界へのパスウェイ」

櫻井準人（日本テニス協会男子ジュニア14才以下監督）

佐藤雅幸（専修大学スポーツ研究所顧問・経済学部教授）

司会：足立清紀（フリーアナウンサー、スポーツ実況）

＜2部＞シンポジウム「日本テニスは、何に挑戦してきたのか」16:35～

松岡修造（日本テニス協会強化育成本部副本部長、修造チャレンジ）

櫻井準人（日本テニス協会男子ジュニア14才以下監督）

牧野 正（元テニスマガジン編集長、ベースボールマガジン社）

佐藤雅幸（専修大学スポーツ研究所顧問・経済学部教授）

司会：足立清紀（フリーアナウンサー、スポーツ実況）

専修大学スポーツ研究所シンポジウム2025

「挑戦！君の魂に火をつける！」

佐藤雅幸は日本テニスに何を遺してきたのか / 日本テニスは今どこまで世界に近づいたのか

近年、日本のテニスはグランドスラム大会やオリンピックで一定の成果を挙げ、世界ランク上位に名を連ねる選手も登場するなど、国際的な存在感を高めつつある。しかし、こうした個々の成果が日本テニス全体の競争力を示すとは限らない。本シンポジウムでは、『挑戦、君の魂に火をつける』をテーマに、選手育成の仕組み、指導体制、競技環境など多角的な視点から日本テニスが何に挑戦してきたのかを探る。日本テニスの発展に深く関わってきた専修大学佐藤雅幸教授、松岡修造氏、錦織圭選手の元コーチら、国内外のトップレベルを知る実践者を招き、現場に基づく知見を共有することで、日本テニスの強化に必要な要素を明らかにし、今後の育成戦略と国際展開の方向性を探るとともに、聴講者の「挑戦」への魂に火をつける！

2025年 12月18日 木 14:50～18:05 延長あり 専修大学生田キャンパス10301教室

主催：専修大学スポーツ研究所 共催：ミズノ株式会社 後援：川崎市、現代ジャーナリズム研究機構

参加問い合わせ：044-911-1032 (tel・fax) · sports@isc.senshu-u.ac.jp

スポーツ研究所シンポジウム 2025
「挑戦！君の魂に火をつける！」

佐藤雅幸は日本テニスに何を遺してきたのか / 日本テニスは今どこまで世界に近づいたのか

日程：2025年12月18日（木）4、5限
会場：専修大学生田キャンパス 10301教室（10号館3階）

近年、日本のテニスはグランドスラム大会やオリンピックで一定の成果を挙げ、世界ランキング上位に名を連ねる選手も登場するなど、国際的な存在感を高めつつある。しかし、こうした個々の成果が日本テニス全体の競争力を示すとは限らない。本シンポジウムでは、『挑戦、君の魂に火をつける』をテーマに、選手育成の仕組み、指導体制、競技環境など多角的な視点から日本テニスが何に挑戦してきたのかを探る。日本テニスの発展に深く関わってきた専修大学佐藤雅幸教授、松岡修造氏、錦織圭選手の元コーチら、国内外のトップレベルを知る実践者を招き、現場に基づく知見を共有することで、日本テニスの強化に必要な要素を明らかにし、今後の育成戦略と国際展開の方向性を探るとともに、聴講者の「挑戦」への魂に火をつける！

＜1部＞基調講演「日本テニスの成長軌道をたどる」15:00～15:40

司会：足立清紀氏（フリーアナウンサー、スポーツ実況）

前半：基調講演 「アスリートの心に寄り添う科学 — スポーツ心理学の実践知を求めて —」

○佐藤雅幸氏（専修大学スポーツ研究所顧問、専修大学経済学部教授）※本講演は専修大学最終講義となります。

本講演では、これまでの研究実践と教育活動を通じて得られた経験をもとに、研究者・指導者としての教員人生を振り返る。長年にわたり現場と向き合いながら得られた知見や課題意識を共有し、「学問は現場で証明される」という信念のもと、理論と実践を往還する教育・研究の在り方について考察する。さらに、専修大学における実践の場を通して、学生や地域との関わりがいかに学びを深化させ、学問を生かすフィールドとなるのかについても言及する。

後半：講演「世界へのパスウェイ — 日本テニスの挑戦 —」15:45～16:15

○櫻井準人氏（日本テニス協会男子ジュニア14才以下監督）

本講演では、テニス界における育成プロジェクト「修造チャレンジ」を題材に、その立ち上げに至る経緯、実施内容、そして得られた成果について振り返る。単なる競技成績の向上にとどまらず、選手一人ひとりの主体性や人間的成长を重視した取り組みの意義を明らかにする。さらに、この実践を通して得られた知見をもとに、他のスポーツや教育、さらには人生そのものにも応用可能な「パフォーマンス向上のモデル」としての可能性について考察する。

＜2部＞シンポジウム「日本テニスは、何に挑戦してきたのか」 16:35～17:50

司会：足立清紀氏（フリーアナウンサー、スポーツ実況）

シンポジスト：

○松岡修造氏（日本テニス協会強化育成本部副本部長、修造チャレンジ）

○櫻井準人氏（日本テニス協会男子ジュニア14才以下監督）

○牧野 正氏（ベースボールマガジン社、元テニスマガジン編集長）

○佐藤雅幸顧問（専修大学経済学部、スポーツ研究所）

本シンポジウムでは、日本テニス界が歩んできた「挑戦」の軌跡を振り返る。1980年代、日本テニスは世界との格差を前に、何に挑戦すべきかを模索していた。1990年代に入ると、世界のトップレベルに迫るための挑戦と、その過程で直面した数々の壁が明らかになった。こうした流れの中で1998年に始動した「修造チャレンジ」は、世界で戦える選手を育てるることを使命とし、日本の育成システムに新たな方向性を示した。

シンポジウムでは、この実践の背景と成果を振り返りながら、「世界へ挑戦するために今の日本に何が必要か」を参加者とともに考える。さらに、時代や競技を超えて通じる「挑戦者に求められるもの」とは何かについて、フロアとのディスカッションを通して探っていく。

